

指導事例 1 Oral Communication と 英語 (第1学年)

「スピーチ」の指導 (Oral Communication)

1 表現活動 (スピーチ) の指導目標

自分の好きなことや自分の考えを分かりやすくまとめさせ、英語で紹介することによって表現力を育成する。また、発表されたものに耳を傾けさせ、コミュニケーションへの態度を養う。

2 単元の評価規準の中で「スピーチ活動」に関係のある規準

(関心・意欲・態度)

- ・顔を上げて間違いを恐れずに発表している。
- ・相手を見て発表を聞いたり、メモを取っている。

(表現の能力)

- ・正しいリズムや発音、イントネーションを用いて発表できる。
- ・重要な点を整理し、わかりやすく自分の好きなことや考えを、適切な声の大きさとで発表できる。

3 指導実践内容

【実践例 1】自分の好きなものを紹介しよう < 音楽 >

Show & Tell (実物を見せながら発表)

- < 目標 >
- (1) 自分の好きな音楽について、英語で説明し相手に具体的に伝えることができる。
 - (2) 相手の発表に耳を傾け、要点をメモしながら評価することができる。

< 指導過程 >

事前準備として、テーマを決め (今回は「音楽」) 提示する。具体的な内容として、タイトル
いつ頃の曲 (グループ) が好きな理由 (3点) をまとめさせる。最初は日本語で考えをまとめさせ、次に英語で表現させる。今回は実物 (CD 等) を見せながら発表する。

【実践例 2】自分の考えを発表しよう < 自分で選んだテーマについて >

Presentation

- < 目標 >
- (1) 興味のあるテーマを 1 つ選び、相手に分かるように考えを整理し英語で発表することができる。
 - (2) テーマについて 3 つのポイントに整理してまとめることができる。
 - (3) 相手の発表に耳を傾け、要点をメモしながら評価することができる。

< 指導過程 >

まず、いくつかのトピックを生徒と相談しながら選び出す。自分の興味あるものから 1 つ選ばせる。それを選んだ理由を考えさせ、またトピックについて自分の考えを日本語でまとめさせて、次に英語で書かせる。英語に直せない生徒には教師側から援助をする。要点を 3 つにまとめ、最終的に 1 分程度のスピーチができるようにさせる。

4 評価ポイント (生徒への事前提示用) 【実践例 1, 2 共通】

目標：第 1 段階	・前を向いてわかりやすく発表できる。 ・クラス全員が聞き取れる声の大きさとで、与えられた時間を十分に使って発表できる。
第 2 段階	・内容は具体的、個性的である。 ・正しいリズムや発音、イントネーションを用いて発表できる。

5 ワークシート【実践例 1、2 共通】

“Presentation”

各自、1つのテーマを選び、それについて発表します。その準備として、選んだテーマとその理由、テーマについて3つのポイントをあげて英文で完成させなさい。

1) Choose 1 topic

2) Write the reasons why you chose the topic.

3) Think about 3 points for the topic.

Class _____ No _____ Name _____

【実践事例 2】のテーマ選択肢例

- What would you like to do after graduation?
- Why do you study English?
- Would you like to be married?
- Why do you have a Keitai(cell phone)?
- If you could, where would you like to travel?
- Is being cool/popular important to a teenager?
- Are teenagers smarter than adults?
- Is dating important for teenagers?
- Should girls invite boys out on a date?

6 発表における評価ポイント (教師用)

5、4については「十分満足できる」と判断する。
3については、「おおむね満足できる」と判断する。
2、1については、「努力を要する」と判断する。

(態度)

- 5 --- 前を向いて、自信をもってジェスチャーなどを含みながら発表している。
- 4 --- 前を向いて、ある程度わかりやすい声で発表している。
- 3 --- 時々下を向いて発表している。
- 2 --- じっとうつむいたまま発表している。
- 1 --- うつむいたまま途切れ途切れに発表している。

(声の大きさ)

- 5 --- 終始、はっきりとした声で、聞き取りやすく発表している。
- 4 --- 不明瞭な箇所があるが、ある程度はっきりとした声で発表している。
- 3 --- 概ね聞き取れる声で発表している。
- 2 --- 聞き取れない箇所が半分を占めるほど小さい声で発表している。
- 1 --- 全く聞き取れない声で発表している。

(内容)

- 5 --- 自分らしさを出した内容で、様々な英語表現を用いてよくまとめている。
- 4 --- 自分らしさを出した内容である。
- 3 --- 教科書などからの文章をそのまま借用しているが、まとまっている。
- 2 --- 特に工夫は見られず、文章にまとまりがない。
- 1 --- 内容がまったくまとまっていない。

(発音・流暢さ)

- 5 --- 正しい発音・強弱に注意し、発音の間違いがほとんどなく流暢に発表している。
- 4 --- 発音の間違いが多少あるが、強弱に注意しながらある程度流暢に発表している。
- 3 --- 途切れながらではあるが、ある程度正しい発音や強弱を意識して発表している。
- 2 --- 正しく発音できている語が少なく、途切れながら発表している。
- 1 --- ほとんど正しい発音ができず、途切れてしまう。

評価ポイントは、一度にすべてではなく、段階ごとに見ていく。第1段階では、(態度)(声の大きさ)で3以上を目指し、80%以上の生徒が達成できれば、次の第2段階において(内容)(発音・流暢さ)に注意しながら取り組むようにさせる。

7 発表時の相互評価シート例 【実践例1、2共通】 (人数分の枠を作り、全員に評価をさせる)

Presentation 評価シート(生徒用)			
No(順番)	Name(発表者名)	Grade(適切と思われる部分にをつける)	Memo
1		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
2		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
3		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
4		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
5		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
6		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
7		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
8		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
9		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	

評価のポイント(生徒用)

4 = 具体的で個性豊かな内容を、わかりやすくはっきりした声で、前を向いて発表している。

3 = 具体的な内容をわかりやすく発表しているが、時々原稿を読んでいる。

2 = 原稿を読みながら、ある程度はスムーズに発表している。

1 = 下を向いたまま、なんとか原稿を読んで小さな声で発表している。

8 第1段階の自己評価シート 【実践例1、2共通】

Class:	No:	Name ()
評価ポイント		
(1)できるだけたくさん話すよう努力した。	[4 3 2 1]	
(2)聞き手にわかりやすくなるよう工夫した。	[4 3 2 1]	
(3)メモを見ずに、前を向いて話せるように努力した。	[4 3 2 1]	
(4)大きな声ではっきりと話すことができた。	[4 3 2 1]	

英語で俳句を作って、発表しよう（英語）

教科書：Power on English I Lesson 3（東京書籍）

1 「俳句作成活動」の指導目標

英語で俳句を作ることで、英語に対する興味を高め、グループごとに発表用のシートを作成させるとともに、俳句の鑑賞を通じて表現力を養う。

2 単元の評価規準の中で、「俳句作成活動」に関係のある規準

（関心・意欲・態度）

- ・言葉だけではなく、見やすくイラストなどを加えている。
- ・関心をもって感想を述べたり、質問している。

（表現の能力）

- ・伝えたい情報や考えを正しく書くことができる。
- ・伝えたい内容、目的に応じて語句や表現を選択し適切に書くことができる。

3 指導過程

- (1) 教科書の内容が終了した後、次時の活動の練習として各生徒に英語で俳句を作らせ、紙に書いて提出させた。上手な作品を印刷し生徒に配布した(次頁参照)。
- (2) 次の時間に4～5人のグループに分け、「季節」が書いてあるくじを引かせた。
- (3) 季語を入れた俳句をグループごとに2句作り、イラストを加えて表現させた。
- (4) グループから2名ずつ代表者を選び発表させた。用意した補助プリント(次頁参照)を配布し、聞いている生徒からも必ず質問するように指導した。

4 評価方法（発表をもとにグループ単位で相互評価する。）

(1) 評価のポイント（生徒への事前提示用）

独創性があり、季節感が伝わってくる	[4 3 2 1]
英語のつづりや語法が正確である	[4 3 2 1]
発表の仕方がわかりやすい	[4 3 2 1]

(2) 相互評価シート（生徒一人一人に配布）

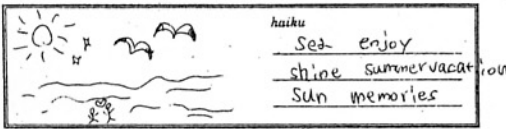
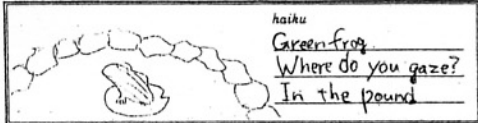
班	評価のポイント	評 価	コメント
A	独創性があり、季節感が伝わってくる	4 3 2 1	
	英語のつづりや語法が正確である	4 3 2 1	
	発表の仕方がわかりやすい	4 3 2 1	
B	独創性があり、季節感が伝わってくる	4 3 2 1	
	英語のつづりや語法が正確である	4 3 2 1	
	発表の仕方がわかりやすい	4 3 2 1	
C	独創性があり、季節感が伝わってくる	4 3 2 1	
	英語のつづりや語法が正確である	4 3 2 1	
	発表の仕方がわかりやすい	4 3 2 1	

Haiku Try It Out! E (p.33)

2003, Jul. 17

クラスメイトが作った俳句を見てみよう (2003/07/15)

- 1) Garden in my house
enjoy fireworks
with my family
*my in the garden
花火と暑と良いわ*
- 2) Broken Watermelon
Romping children
Summer sea
遊んでいる子供らの様子
- 3) I swim in the sea
Swimming pool
I eat a watermelon
*泳ぐ水の池
a slice of watermelon
水、一口のスイカ*
- 4) Hot sunshine
Broken watermelon
*Hot SUN is shining 暑
暑いわ*
- 5) Summer festival
Sea
Blue sky
海いのお祭の様子
- 6) Hot summer
The beach grilling
Summer sunshine
焼く肉の砂浜 暑いわ
- 7) Fireworks is beautiful
shine...
*花火と
お祭り*
- 8) Going to the festival
*おまけ
イラスト付きで書いてくれた
Thanks a lot!*
- 9) Summer Vacation
all smile
flood
海がね?
- 10) Summer is hot
I don't like summer
I feel sick with summer
夏 暑いわね
- 11) Summer vacation
Fireworks are beautiful
Night sky
*夜空に花火
in the night sky*
- 12) Grandfather
Waist curve
don't walk
おじいさんの背が丸いわね
- 13) Cheery fall
Wind and same
Spring end
春の終わりはね?



Haiku Presentation!

英語 I

2 presenters for each group (グループで発表者2名)

発表者 "Hello, this is group No. _____"
"Our group has haiku for _____"

ひとつずつ俳句を読みましょう

聞いている人は・・・ (質問してみよう)

"Excuse me." (すみません)
 "Can I ask you a question?" (質問してもいいですか)
 "What is -----?" (---は何ですか)
 "What does ----- mean?" (---はどういう意味?)

答えるときは・・・

"It is -----." (それは---です)
 "It means -----." (それは---を意味します)

"What do you think about this haiku?" (この俳句についてどう思う?)

"I think it is -----." (それは---だと思います) と答えよう

<examples> good / excellent / wonderful / beautiful / interesting / nice / difficult / great / fun / など

(実際の作品例)

Cherry tree
Falling of the moment
End of spring

Summer
is hot.
Sea is beautiful.
Sky is blue.

Going Ashikaga's
fireworks.
Beautiful Sky
Delicious Foods

Autumn is
delicious
baked Sweet
Potato

インタビューをしてワークシートを完成させよう（英語）

“あなたはどんな人間ですか？”

1 「インタビュー活動」の指導目標

コミュニケーションへの積極的な態度を養うとともに、インタビューすることで、重要表現の定着を図る。

2 単元の評価規準の中で「インタビュー活動」に関係のある規準

（関心・意欲・態度）

・学んだ表現を使って、積極的に相手に質問したり答えたりしている。

3 指導過程

教科書の中の重要文の1つを用いて、クラスメイトとのインタビューをさせ、聞き取った事項をワークシートに記入させる。最初は全員起立させ、同時にスタートさせる。指定された人数分のインタビューが終了した生徒から着席させ、9割程度の生徒が終了した時点で数名に発表させる。最後にワークシートを全員提出させて、記入されているかどうかを確認し、コミュニケーションへの態度と重要表現の定着度を評価する。

4 評価方法

観察と完成したワークシートをもとに教師が評価する。

生徒の記入したワークシートの例

Lesson8 Part2
Interview あなたはどんな人間ですか？

“what kind of person are you ?”

“I'm not a person to _____.” の文を用いて、
「自分は～するような人間ではありません」という表現をしてみよう

Sample A: What kind of person are you ?
B: Well, I think I'm not a person to believe a story like that.
A: I believe you.

Let's interview at least 10 classmates. (少なくとも10人のクラスメイトに聞きましよう)

Friend's name	He/She is not a person to ...
Ehri	She is not a person to <u>persecute animals</u>
Ai	She is not a person to <u>do home work</u>
Yuki	She is not a person to <u>tell a lie</u>
Kubo	She is not a person to <u>smoke</u>
Megu	She is not a person to <u>smoke</u>
Shizu	She is not a person to <u>smoke</u>
Nadoka	She is not a person to <u>tell a lie</u>
Yoshiba	She is not a person to <u>smoke</u>
Kyoko	She is not a person to <u>be late for school</u>
Aya	She is not a person to <u>smoke</u>

<Hints> tell a lie うそをつく / sleep during a class 授業中に寝る / skip a class 授業をさぼる / litter things around こみを散らかす / persecute animals 動物をいじめる / betray my friends 友達を裏切る / give up easily on a test テストを簡単にあきらめる / be late for school 学校に遅刻する / cheat on a school test テストでカンニングする / smoke たばこを吸う / say bad things about friends behind them 陰で友達の悪口を言う / その他、自分で考えよう！

Lesson8 Part2
Interview あなたはどんな人間ですか？

“what kind of person are you ?”

“I'm not a person to cheat on a school test” の文を用いて、
「自分は～するような人間ではありません」という表現をしてみよう

Sample A: What kind of person are you ?
B: Well, I think I'm not a person to believe a story like that.
A: I believe you.

Let's interview at least 10 classmates. (少なくとも10人のクラスメイトに聞きましよう)

friend's name	He/She is not a person to ...
Saori	She is not a person to <u>persecute animals</u>
Akiko	She is not a person to <u>litter things around</u>
Ayako	She is not a person to <u>smoke</u>
Fumiko	She is not a person to <u>be late for school</u>
Nadoka	She is not a person to <u>tell a lie</u>
Manami	She is not a person to <u>skip a class</u>
Manami	She is not a person to <u>smoke</u>
Kyoko	She is not a person to <u>be late for school</u>
Saori	She is not a person to <u>betray my friends</u>
Ayane	She is not a person to <u>smoke</u>

hints> tell a lie うそをつく / sleep during a class 授業中に寝る / skip a class 授業をさぼる / litter things around こみを散らかす / persecute animals 動物をいじめる / betray my friends 友達を裏切る / give up easily on a test テストを簡単にあきらめる / be late for school 学校に遅刻する / cheat on a school test テストでカンニングする / smoke たばこを吸う / say bad things about friends behind them 陰で友達の悪口を言う / その他、自分で考えよう！

定期考査における工夫・改善（英語）

定期考査では、授業で学習した教科書の内容にそって、ワークブック、単語集、基本文法練習帳などから出題した。また、各問題がどの観点进行评估するものなのか明確にすることにした。

(1) 言語や文化に対する知識・理解をみる設問

単語・熟語 授業開始時に行っている単語テストから、同様のものを出題する。視覚的効果もねらい、状況にあわせてイラストや図なども用いる。

(以前までは、単語のみ日本語 英語、英語 日本語の出題をしていたが、できるだけ自然な形で出題することを目標とし、文章の中に組み込んで出題するようにした。)

以前までの問題形式(例)

以下の単語を、英語は日本語に、日本語は英語に直しなさい

- 1) 家族 2) 娘 3) 自転車 4) 夏 5) 紳士 6) face 7) tooth 8) cheek

変更後の問題形式(例)

()内の日本語を、英文にあうように適切な英単語に直しなさい

- 1) There are 5 people in my (家族).
2) She has a seven-year-old (娘).
3) How did you come to school? ---- I came here by (自転車). など

(2) 表現の能力をみる設問

生徒の内面への質問 教科書の内容と関連のある質問を、生徒自身が経験したことについて出題し、自分なりの答えを書くことができるかどうかをみる。授業中にも練習として答えさせておく。

【授業中に配布する練習用プリント(一部)】

次の<例1> <例2> は答え方を各自に覚えさせてから、授業での英問英答に利用した。

<例1>

Questions (Review LESSON 4)

インタビューテスト用 答えをしっかりと答えるように!

- 1) Have you ever seen a hot-air balloon?
2) Where is Chateau d'Oex?
3) Where do you live? Where were you brought up?
4) What do you use to blow air into the envelope?
5) Are you interested in hot-air balloons?

< 例 2 >

Review! (復習) Lesson5 “Everybody can help”

<1> Questions ()内の文を用いて、答えられるようにしよう。

1) Where does Ram live ?

(He lives in _____ .)

2) What does Tom's family do to help Ram ?

(They send him _____, _____, _____, and _____ .)

3) When did Tom's mother want to become an overseas volunteer ?

(When she was _____ .)

4) What did she want to do ?

(She wanted to _____ .)

5) How did Tom's mother meet Ram ?

(She _____, but her friend _____ .)

6) How long does it take Ram to go to school ?

(It takes about _____ .)

7) How does he go to school ?

(He _____ .)

【実際に中間考査で出題した問題】

. あなた自身への問題です。以下の質問に英語で答えなさい。

1) Have you ever been to Okinawa ?

2) Where were you brought up ?

3) How do you come to school ?

正答率、誤答例などは「考察・まとめ」(P. 15)を参照。

考察・まとめ

1 英語になじみやすい授業の雰囲気作り

クラスの中には、英語を最初から苦手としている生徒や、ゲームや話すことはなんとなく好きだが、文の意味や構造が理解できない生徒もいる。また、ペーパーテストにはなんとか取り組めるが、発言したり自分自身について発表したりすることが苦手という生徒も多い。また、英語に対する拒否反応を示す生徒もいるため、授業の最初にできるだけリラックスした雰囲気を作ることを心がけた。英問英答では、できるだけ身近な内容や、前時で学習した内容の復習を取り入れるようにして、多くの生徒に慣れさせるようにした。表現するのが苦手な生徒も頻繁に英問英答を繰り返すことで、英語で答えることができるようになった。

2 スピーチの指導

オーラル・コミュニケーションの授業(OC、OC)は、聞くこと・話すことを中心として指導する科目である。本事例では、スピーチ等の発表をさせるまでに時間がかかった。スピーチは試験扱いで行い、聞き手にも評価をさせたが、問題点は生徒が自分の発表の準備に夢中で、発表者に意識が向けられていないことである。準備不足を補うために、全体発表の前に、ペアによる発表練習時間を十分に取る必要があった。

発表をさせる際の手順

1. テーマを決める。原則として、生徒各自で決めさせるが、場合によっては、例をあげて選ばせる。
2. 最初から英語で、というのは難しい生徒が多いため、日本語で原稿の大筋を書く。
3. 日本語の原稿をチェックし、英語に直すよう指示する。
4. 英語に直すのが難しい場合、教師がサポートする。
5. 英語の原稿をチェックする。
6. 発音・イントネーションなどの指導をする。(この後、ペアによる発表練習を設けるとよい)
7. 黒板の前で発表させ、聞き手にも評価させる。
8. 発表が終了した生徒から、原稿を提出させて評価に加える。

オーラル・コミュニケーションの授業においては、以上のような指導手順を踏むのが一般的であり、内容を考えて英文の原稿を完成させるまでが指導上難しい部分である。発表段階において、堂々とスピーチできる生徒もいれば、内容が疎かになってしまう生徒もあり、全体的に理想的な形に持っていくまでには時間がかかる。

英語では、中学校の授業形態が身に付いているので、授業中、英語を話すことにあまり抵抗を感じない生徒が比較的多かった。1年生の段階では、特に教科書に出てきた基本文などを中心に暗唱させたり、一部だけ自分自身の内容を加えて発表させたりすることでスピーチに慣れさせたい。また、できるだけ多くの音読をする時間を増やしていきたい。声を出さず練習をさせる方法として次に示すいくつかの方法を試みた。

- ・個人的(または列ごと)に指名してパラグラフごとに音読させる。
- ・前の人がどこを読んでいるか意識させ、1人1文ずつ、途切れないように全員続けて音読させる。
- ・会話形式の場合は、1人を指名し、相手を自分で選ばせて2人で音読させる。

クラス全体で教師のあとに続いて読ませる場合は、生徒はなかなか声を出そうとしない。しかし、個人的に指名した場合は、ある程度声を出して読める生徒もいる。1人ずつ音読のテストを行ってから、スピーチさせるという手順もあるが、授業中に個人指名をした際に、できるだけ多くの生徒に読む機会を与え、その時点でどのくらい読めるのかをある程度は判断したい。暗唱の場合は、指定した部分を覚えた生徒から順番にチェックしたが、完全に覚えて感情を込めて言う、という段階まで進まないのが現状であり、ペア活動による練習時間を授業中に設ける必要があると感じた。

3 定期考査について

英語 やライティング、リーディングの定期テストは、考査の時間割の中で実施している。オーラル・コミュニケーションの考査は、通常の授業で実施し、スピーチなどを試験として行うことが多くなってきた。

英語 では、ノートや提出物、小テスト、口頭による発表なども評価の対象とした。また、授業中の表現活動が定期考査に活かされるように工夫している。さらに授業中、一度学んだ本文のパートを復習として穴埋めをさせたり、終了した単元の内容を再度リスニングさせたりした。また、単語は小さな単元が終わるごとにパズル問題のようなものを用意し、学習事項を確認しながらもう一度単語を自分で書くという作業をさせるようにした。定期考査は評定の主要な部分であり、定期考査を活用して学習内容の定着を図ることが重要である。また、学習目標として、「この表現は必ず使えるようにしてもらいたい」、「この単語は書けるようにしてほしい」と、生徒に伝えておき、通常の授業においても常に目標を意識させることで、定期考査の結果に結び付くように工夫した。

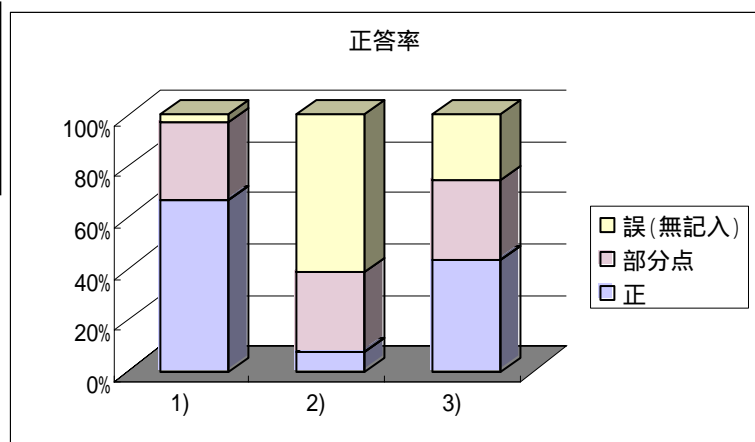
「定期考査における工夫」の(2)について、英語 での正答率と誤答例は以下のようにになっている。

以下の質問に英語で答えなさい。

- 1) Have you ever been to Okinawa?
- 2) Where were you brought up?
- 3) How do you come to school?

正答率 (39人中)

	正	部分点	誤
1)	26	12	1
2)	3	12	24
3)	17	12	10



(誤答例)

- 1) ・ I haven t never been to Okinawa. (not と never)
- ・ I am never gone to Okinawa. (be 動詞の混入)
- ・ No, I have. (not の欠落)
- ・ Yes, one Okinawa. (未完結文)
- 2) ・ I brought up in Ashikaga. (was の欠落 10名以上)
- ・ No, I wasn t. / Yes, I was. (不適切な回答)
- ・ I ____ brought up from Ashikaga. (in ではなく from / was の欠落)

- 3) ・ I m come to school by bike. (be 動詞の混入)
- ・ I come to school is by bike. (is の混入)
- ・ I come school by bike. (to の欠落)
- ・ It s 30 minte. / I m very happy. (不適切な回答)
- ・ I m go to bike. (不完全な文)
- ・ wark (単語のみ。おそらく walk と書きたかったのであろう。)

生徒は授業中に発表し暗唱した内容は覚えている。今後も、表現活動を取り入れて、学習効果を上げていきたい。

誤答を見て非常に気になる部分は、「一般動詞」と「be 動詞」を使い分けることができない生徒が多いということである。日常的に英作文をさせても、“I m go to Tokyo.” や “I am have a dog.” などと書いてしまう。また、“I like best is soccer.” のように答える生徒もあり、「～は、～が」等の意味で”is”を使わずにはいられない様子も見受けられる。日本語の訳に合わせようとする結果、そのようになってしまうのだと思われる。英語の正しい言い回しがより自然に身に付くように、授業においてスピーチ活動や英問英答の機会を増やしていきたい。

4 アンケート

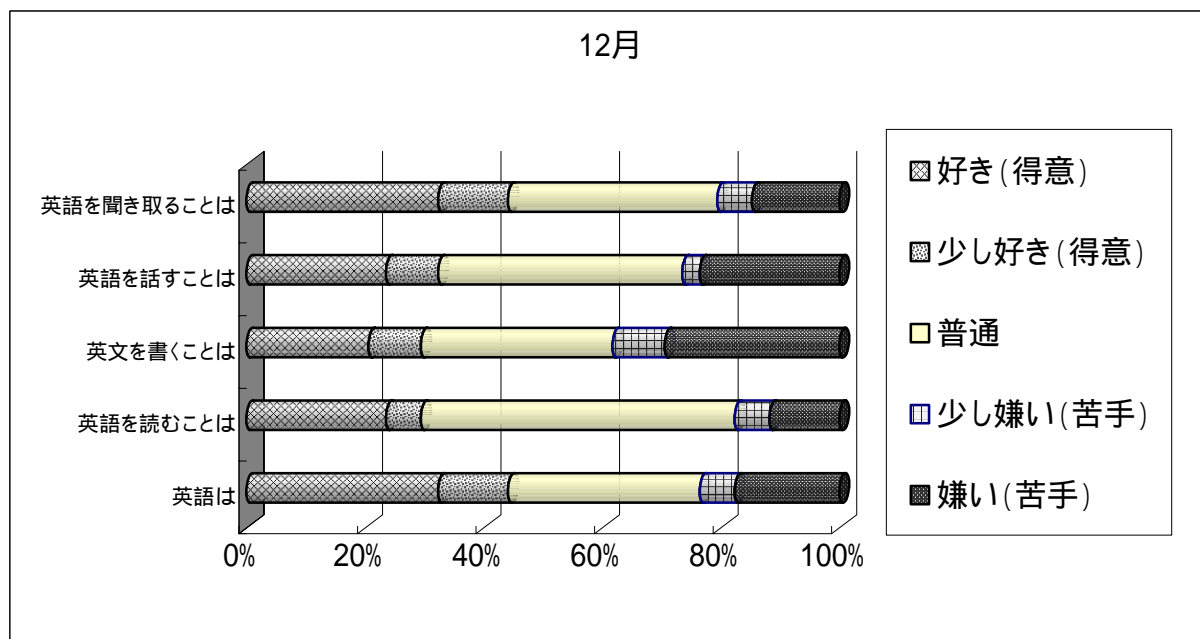
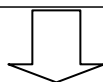
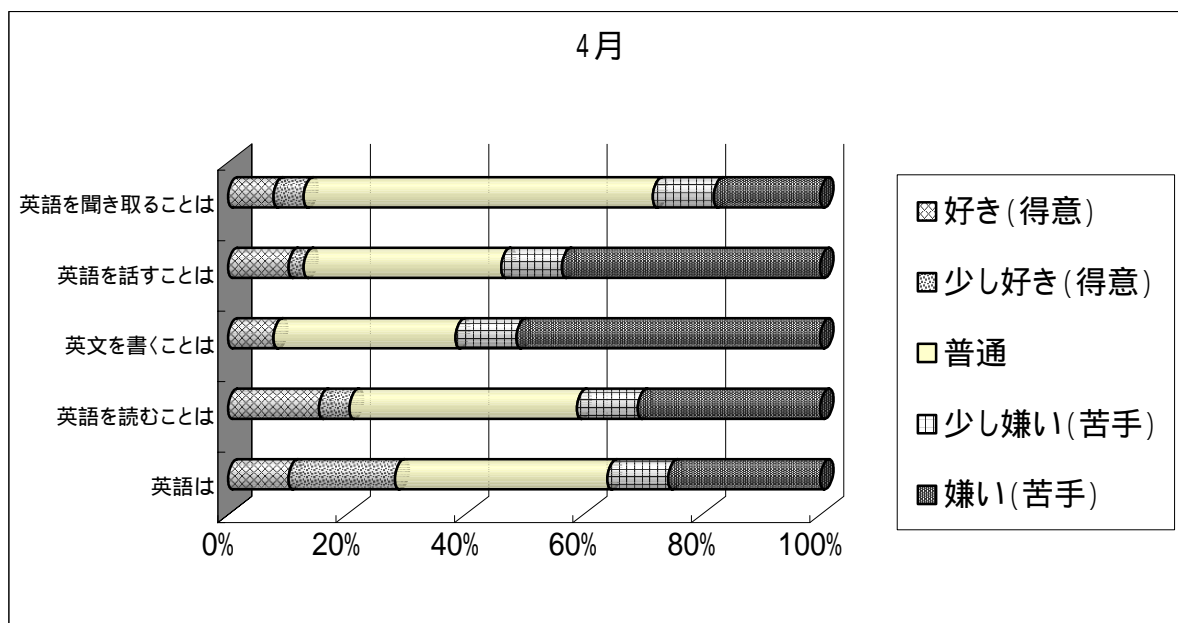
英語 のクラスを対象に、アンケートを実施した。4月と12月に同じ内容のものを行い、変化を見た。基本的な項目は5つで、以下のような形式で行った。

(授業で実施したアンケート)

<h2 style="margin: 0;">Questionnaire < 1年生対象 ></h2> <div style="text-align: right; font-size: 1.2em; margin-top: 5px;">12月</div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">4月に行ったものと、おなじ内容です。以前と比べて、どうでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">以下の質問に答えてください(もっとも当てはまる位置に 印を付けてください)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 30%; text-align: center;">好き(得意)</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">普通</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">きらい(苦手)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 英語は……</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> </tr> <tr> <td>2) 英語を読むことは……</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> </tr> <tr> <td>3) 英語の文を書くことは……</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> </tr> <tr> <td>4) 英語を話すことは……</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> </tr> <tr> <td>5) 英語を聞き取ることは……</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> <td style="text-align: center;">+ ----- +</td> </tr> </tbody> </table>		好き(得意)	普通	きらい(苦手)	1) 英語は……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +	2) 英語を読むことは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +	3) 英語の文を書くことは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +	4) 英語を話すことは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +	5) 英語を聞き取ることは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +
	好き(得意)	普通	きらい(苦手)																					
1) 英語は……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +																					
2) 英語を読むことは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +																					
3) 英語の文を書くことは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +																					
4) 英語を話すことは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +																					
5) 英語を聞き取ることは……	+ ----- +	+ ----- +	+ ----- +																					

どのくらい好き(得意)と感じるか、また嫌い(苦手)と感じるかを5段階程度に分けて記入させた。英語について「好き」と「得意」、また「嫌い」と「苦手」という言葉をそれぞれ同じように提示してしまったので、英語は「好きだけ」でも「苦手」という場合の記入に迷った生徒もいたようである。他にも、「英語 で行った暗唱・発表など」や、「英問英答」についての質問も設定した。それらについて生徒の感想をいくつかまとめてみた。

まず、4月及び12月の回答状況は以下のようになっている。対象生徒数は39名。



スピーキングを中心に指導してきたが、話すことはやはり難しいようであった。意外だったのは、「聞き取れるようになった」と感じている生徒が増えたことである。これは、英問英答では、質問を聞き取らないと答えられないことに関係しているのではないと思われる。わずかではあるが、全体的に「少し英語が好き(得意)」と感じるようになった生徒が増えたことは、よい傾向である。一方で、「英語にやる気がおきない」、または「覚えられないので発表や暗唱は辛い」という生徒もいる。苦手意識を克服させるためにも、今後も指導を工夫していくことが必要である。

その他の質問項目として、「発表・暗唱」について、また「英問英答」についてなどを設定した。黒板の前で発表することについては、「大変だけどやってみてよかった」「練習をするので覚えていることも多い」「次の発表はがんばりたい」などの前向きな意見が多かった。一方で、「緊張するからやりたくない」「ちゃんとできない」というよ

うな否定的な感想もあり、少しでも慣れさせていきたい。授業の最初に復習を兼ねて行っている「英問英答」については、「授業をちゃんと聞くようになった」、「質問文の最初の単語を聞き取るように集中したい」、「先生がヒントをくれればなんとか答えられる」などと前向きな感想があった。中には「質問されても意味不明」といった感想もあり、自信や意欲的な態度を育てる工夫が必要であると感じた。

5 今後の課題

目標と指導と評価を一体化させるためには、継続性のある指導が必要である。また、同一科目を複数教員で担当する場合は、担当者間で出題の方針や内容について共通理解を図る必要がある。本研究では、スピーチ活動を中心に行ったが、「話すこと」・「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の4つの技能は相互に関連しているものであって、授業から定期考査までを通してバランスよく学習させたい。